

# 田中彫刻記

でんちゅうちようこくき

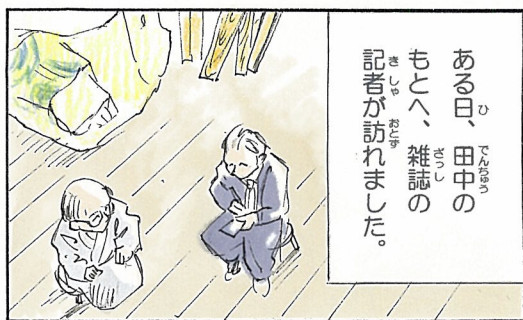
## 第二十六話 (最終話)

でんちゅう こころまじり じせだい  
～田中の志、次世代に～

Takashi  
作 ©いとうたかし



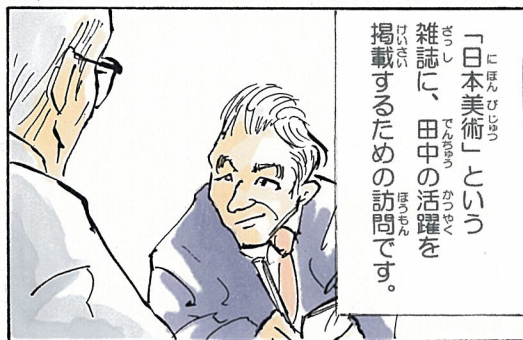
この鏡獅子  
わりには  
7割の荷が下りたな...



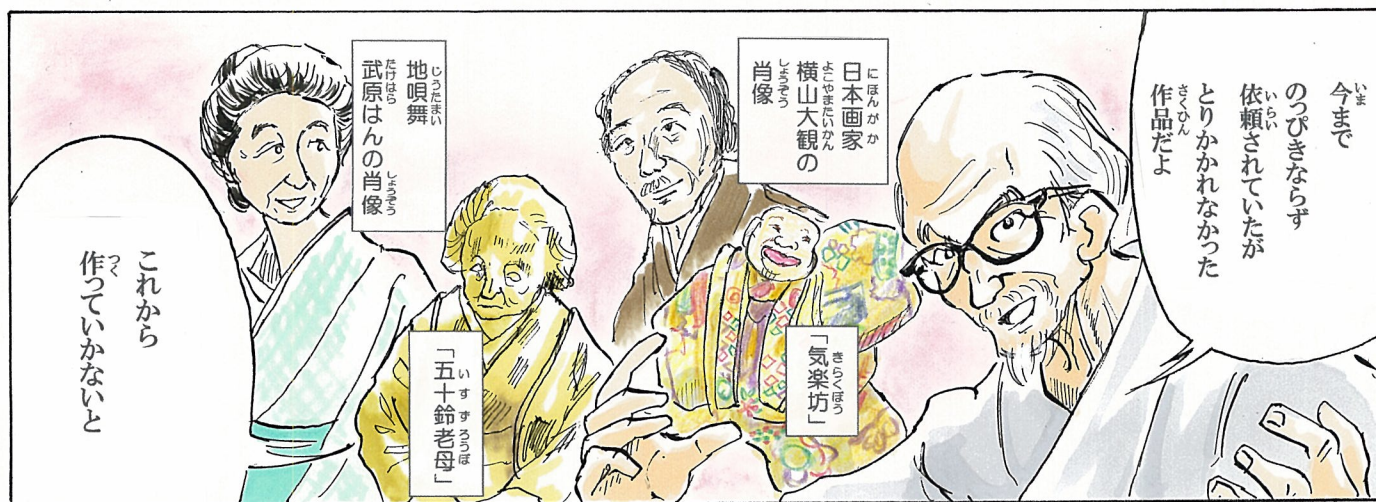
ある日、田中の  
もとへ、雑誌の  
記者が訪れました。



あとの3割は  
なんですか？



「日本美術」という  
雑誌に、田中の活躍を  
掲載するための訪問です。



今まで  
のつぎならず  
依頼されていたが  
とりかかれなかった  
作品だよ

日本画家  
横山大観の  
肖像

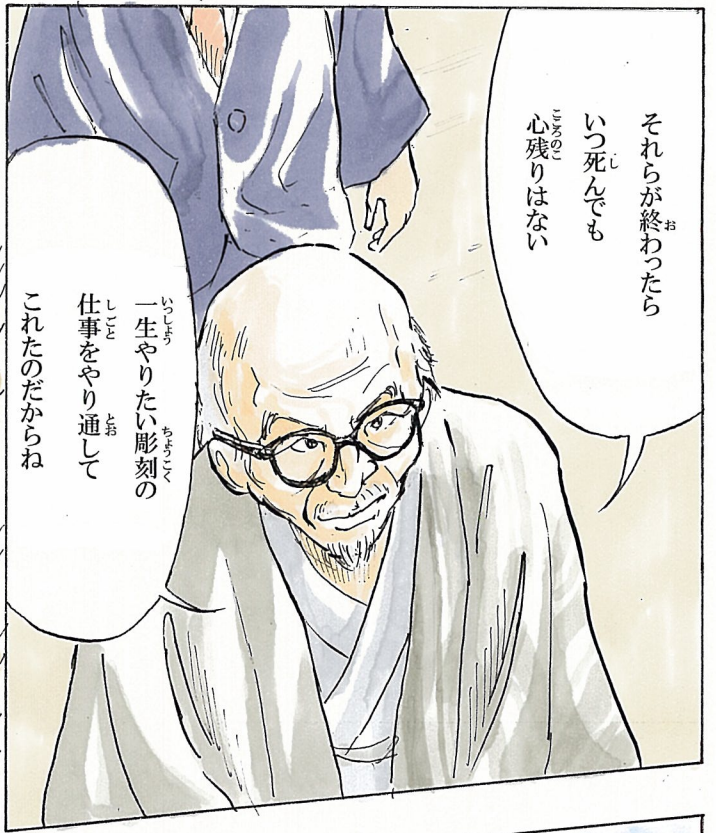
「気楽坊」

「五十鈴老母」

地唄舞  
武原はんの肖像

これから  
作っていかないと





それらが終わつたら  
いつ死んでも  
心残りはない

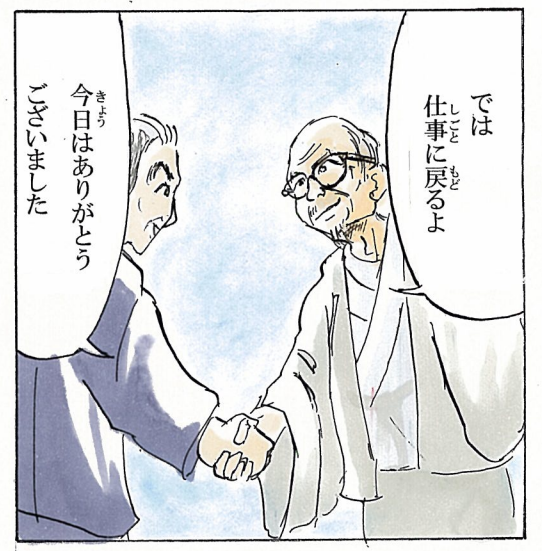
一生やりたい彫刻の  
仕事をやり通して  
これだからね



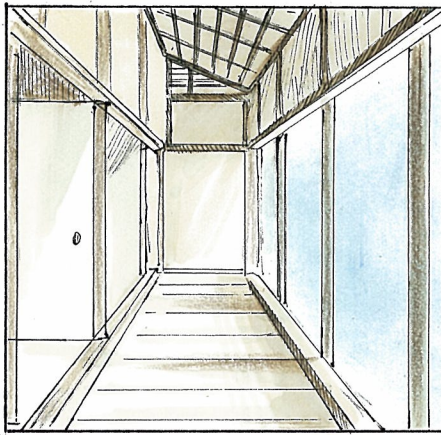
木彫にあこがれて故郷を  
飛び出した田中は、その志を  
果たしました。  
昭和47年には、小平市名誉市民に  
推戴され、その後も彫刻一筋に  
生命を燃やし続けました。



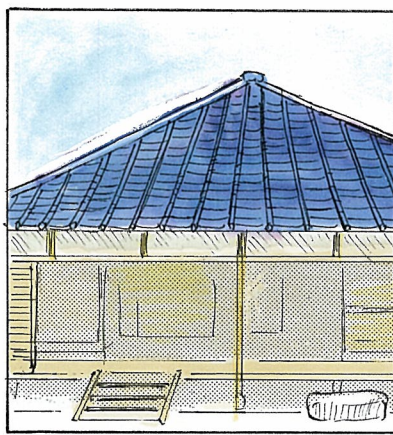
あとは地獄か極楽か  
分からないが、オサラバ  
結構ですわい アハハ…



では  
仕事に戻るよ  
今日はありがとう  
ございました



日本近代彫刻の歴史に  
大きな足跡を残し、今は  
静かに歴史の中に身を  
置いています。



昭和54年12月30日  
田中は108歳（満107歳）の  
生涯を閉じました。

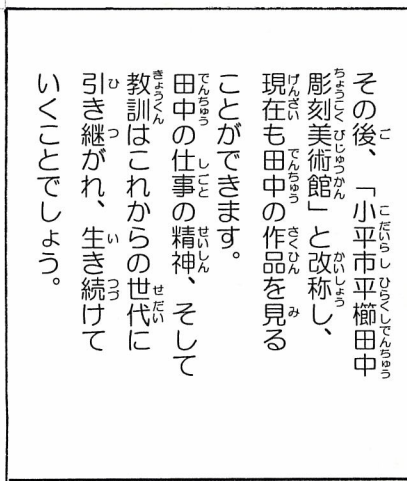


弘子さん、  
開館の準備が  
整いました

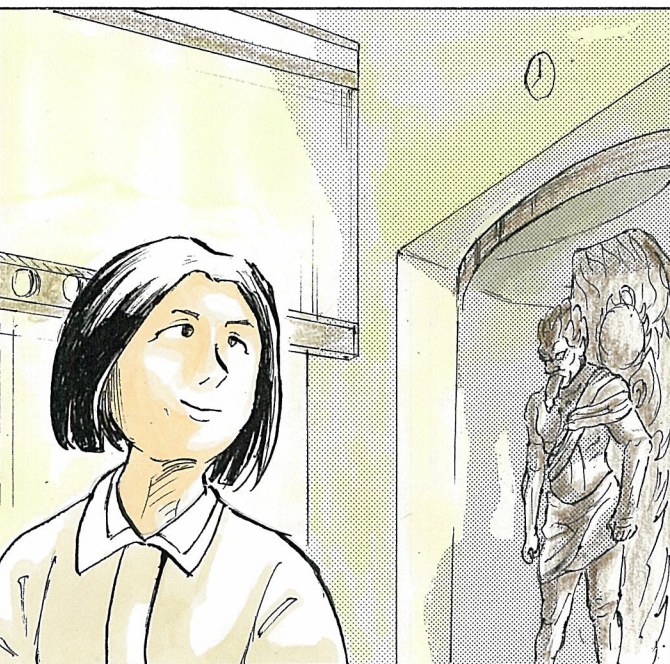
はい



おじいちゃん  
の遺志を  
私達が受け継ぎます



その後、「小平市平櫛田中  
彫刻美術館」と改称し、  
現在も田中の作品を見る  
ことができます。  
田中の仕事の精神、そして  
教訓はこれからの世代に  
引き継がれ、生き続けて  
います。



昭和59年10月25日  
田中の邸宅を広く公開するため、  
「小平市平櫛田中館」が開館  
しました。



# 田中彫刻記 おわり